

**研究課題名：**治療抵抗性統合失調症に対する客観的診断・治療法の開発

**研究組織：**

研究責任者 池田 匡志 (医学部・精神神経科学・講師)

分担研究者 斉藤 竹生 (医学部・精神神経科学・助教)

関連施設及び共同研究施設

国立大学法人大阪大学大学院連合小児発達学研究科 附属子どものこころの  
分子統御機構研究センター (橋本亮太 准教授)

**研究期間：**平成 27 年 10 月 5 日～平成 28 年 3 月 31 日

**実施事項の概要：**

治療抵抗性統合失調症に唯一効果がある薬剤は、クロザピンという抗精神病薬のみであることが報告されている。しかし、現状は、治療抵抗性統合失調症の1-2%しかクロザピン治療を受けていない。使用が拡大しない大きな理由として、クロザピン誘発性無顆粒球症という致命的副作用の存在が挙げられ、副作用発症の予測因子がない現在、臨床医が処方のためらっている可能性が考えられる。本研究では、クロザピン治療の導入や再投与に役立てるため、クロザピン誘発性無顆粒球症の全ゲノム関連解析および責任遺伝子同定を行うことを目的とし、客観的診断法の開発を行う。

対象は、クロザピン治療実施中・実施後の統合失調症患者から得られた DNA サンプルで、すでに収集されており、クロザピン誘発性無顆粒球症の有無や年齢性別など臨床情報を具備している。尚、本サンプルは藤田保健衛生大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会で承認された研究「遺伝子解析によるこころの健康とこころの病気に対するかかりやすさ（発症脆弱性）や薬の効きめや副作用（治療反応性）等の解明に関する研究」に基づき収集されたものであり、その一環として本研究課題（治療抵抗性統合失調症に対する客観的診断・治療法の開発）の解析は行われる。

**研究費用：**

本研究課題は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の委託研究として行われる。

**利益相反**

研究責任者は、ヤンセンファーマ KK より受託研究として、「治療抵抗性統合失調症に関する遺伝子研究」(総額 1,998 万円)の研究費をサポートされている。この受託研究では、本研究課題と同じ DNA サンプルを用いて行われるが、内容

は治療抵抗性統合失調症の全エクソン解析（目的：治療抵抗性統合失調症のリスクとなりうる遺伝子変異の同定）である。従って、本研究課題の目的（クロザピン誘発性無顆粒球症の責任遺伝子同定）と異なっている。